

【ねがいましては】

平成30年3月23日

KYOWA SCHOOL

第329号

「成功とは」

ホンダ技研工業の創始者、本田宗一郎さんの名言のひとつに「成功とは 99%の失敗に与えられた1%だ」というのがありました。

前回ご紹介した中江有里さんの記事は、パナソニック創業者の松下幸之助さんが創設されたPHP研究所発行からのものです。ご両人ともに、貧しい生活からのスタート。一代で大会社に育て上げた苦労人でもあります。

「成功とは」・・・子どもたちの中では、成功は「良いこと」、失敗は「悪いこと」として、自然のうちに判断が出来る上がっているようです。当たり前と言ってしまうえばそうなのかもしれません。子どもたち100人に聞いても、すべてそう答えると思います。

ですから「失敗したくない」という感情が先に立ち、スタート時点でちぢこまってしまう。体育の時間がそうなのかもしれません。鉄棒・マット運動・高跳び・水泳などなど。すべてひとりでやっているわけではない、必ず他人が見ている状況・・・そこでやらかした「失敗」・・・100発100中で、トラウマ吸着・・・

誰もチャレンジしたことの『勇気』を称えようとはしてくれません。当たり前・・・皆やっているのですから・・・

それで片付けてほしくはありません。その子その子にとってのスタート時点での「勇気」に違いがあるからです。

跳び箱がその良い例かもしれません。3年生の時、3段しか飛べなかった。皆、5段くらいは飛んでいた。そんな想い出を抱えたままの子にとっては、4年生での4段は、心臓がバクバクするほど勇気のいることになります。逆に3年生の時に8段まで飛んでいた子は、4年生でも余裕充分・・・

人生で大切なことは、前向きに生きようとするこのはずです。子どもが「何とかするぞ」の勢いで、黙々と生きようとする姿は、誰が見ても感心する姿であり拍手喝采です。それが一度も成功しなくてもです。その目が前向きだからです。しかし現実はそのようではありません。失敗すれば、罵声の嵐なのかもしれません。そのような環境では、育つものも育たない・・・それをすべて払いのけることが「成功とは99%の失敗に与えられた1%だ」です。

つまり、失敗しなければ成功はないということです。すべてが100%だとすれば、その中に失敗が99個、成功が1個です。いつも成功と失敗は同居していなければなりません。

だから、跳び箱で3学年時にすでに8段飛んでいた子は、4学年時の最初の跳び箱授業で、4段が初めから飛べたとしても、それは成功でも何でもありません。失敗が99個ないからです。であれば、9段・10段に初めからチャレンジし、100回目に9段が成功すれば、それは本物の成功です。

子どもたちの学校生活の中で行われる横一線の授業スタイルは、そんな本物の成功を味わう場としては、少々難題が多すぎるような気がいたします。

大切なことはお子さんが幼少のころより、「常に失敗があるから成功へとつながる。だからチャレンジしていることが良いことなのだ。」という常識を伝えることではないでしょうか。

失敗に次ぐ失敗で、それでも諦めずに向かっている姿にこそ、拍手を送ること。真剣な眼差しで向かい続けている姿にこそ拍手を送ること。格好悪い姿でひっくり返っても、その眼差しが真剣であれば、その姿に拍手を送ること。とても大切な心の土台であると思います。

ある5年生の子がいます。その子は算数が苦手です。たしざんの繰り上がりがあると、手を使います。でも、こつこつと歩きます。いつしか手を使わずに1年生のプリントをするようになります。私はその姿が大好きです。けっして周りの子は、その行っている内容を見て、バカになどしません。「5年生の子が1年生の問題を？」上から目線は一切ありません。その努力している姿に何も口を挟むことができないからです。目は、瞳は真剣なのです。

私は思います。成績とは何なのでしょう。その子の努力の度合いになぜ評価を与えないのでしょうか。学校からのテスト結果に神経質になっている保護者の方に質問したいのです。100点なら立派な「ひと」なのですか。「0」点は、「ひとのクズ」なのですか。

私からすれば、「0」点でも、真剣に向かったのなら「ひと」、自分は100点を取りながら、横目でとなりの子の「0」点を見て、「あいつはバカだ」とさげすむ人こそ「ひとのクズ」です。

どうか文部科学省は考え直していただきたいのです。99%の失敗をしながら1%の成功を収めた子どもに評価をと・・・

分からない問題に時間をかけ取り組んだ後に、「わかりません」といって、質問に出てくる行動に評価を・・・

自分だけ黙々と学習を進めながらも、となりの子が「うーん」と立ち止まっていたなら、そっと声をかけてあげる子に評価を・・・

そしてそんな行動が当たり前になっているあなたにこそ「しあわせ」がやってくることを・・・